

県の消防防災ヘリコプター「きび」が中四国地方の災害救助や救急搬送で活躍している。2日には徳島県の山中で遭難者を救助するなど、2009年秋の導入以来、県外への出動は74件で全体の約2割に上る。機能性の高さに加え、岡山市のヘリとカバー体制が整っており、県外の要請に応えやすいという。近い将来、南海トラフ巨大地震の発生も予想され、県は大規模災害に備えたさらなる連携強化を図る方針だ。（福本尚純）

県消防防災ヘリ「きび」

「登山客の救助、搬送をお願いしたい」。2日午後3時35分、徳島県から岡山県に出動要請があった。

遭難したのは11月30日。徳島県那賀町と、高知県馬路村の境にある甚吉森（1423㍎）に登っていた夫婦のうち、妻がはぐれた。既に2日が経過し、救助隊が発見した時には、ひどく衰弱しており、一刻も早い救急搬送が必要だった。

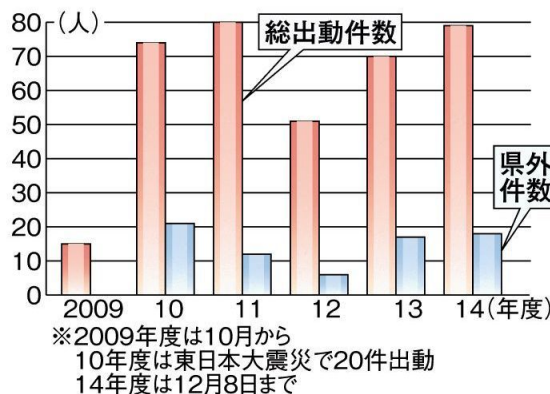
徳島県のヘリは機体に不具合があり、相互応援協定を結んでいた四国各県のヘリも点検などで出動できない。要請を受けたきびは岡南飛行場（岡山市南区浦安南町）を離陸。要請から50分後には現場に到着し、無事女性を救助した。

中四国が中心

きびは09年10月に、岡山市の「ももたろう」に次ぐ、県内2機目の消防防災ヘリとして配備された。救助、救急搬送、林野火災での消火など地域防災の一翼を担っている。

中四国地方では、広島、高知のヘリの次にエンジン出力が大きく、高度の高い場所でも長時間ホバリングできるのが特長。山岳遭難や災害救助など幅広い現場対応が

救急救助 県境越え活躍



期待できる。県によると、活動を重ねるにつれ、他県の認知度も上がり、県外からの応援要請は12年度を除いて、毎年度10数件で推移している。8月の広島市の土砂災害では2日間、上空から行方不明者の捜索に当たった。

県内を含めた369件の出動のうち2割近くが県外で、出動先はほとんどが中四国地方。活動の内訳（8日現在）は、救急搬送25件▽災害21件▽火災15件▽救助13件―の順となっている。

要請受けやすく

岡山の消防防災ヘリが県外で活躍できるのは、県内2機体制を取って

県内2機体制 通年運航可能 災害対応へ連携強化

いることが挙げられる。ヘリは点検などで年に1カ月半〜2カ月程度は必ずオーバーホールする。1機しか所有していない県が多く、連休中は近県に依頼するが、岡山は通年運航が可能で、県外要請を引き受けやすい。

今後は、より迅速に連携できる環境づくりが課題になる。これまで県の規定に基づいて出動してきたが、11年3月には中国地方の4県と、同年8月には香川県とそれぞれ相互応援協定を締結。出動することに話し合いで決めていた費用負担などをあらかじめ定め、円滑な運航に役立てる。

近い将来に発生が懸念される南海トラフ地震に備え、香川県との合同訓練も計画。管理などを担当する県消防防災航空センターの沼本哲郎センター長は「大規模災害では広範囲で長期間の活動も想定される。より実践的な訓練を行い、連携を深めた」と話している。



県消防防災ヘリ「きび」で訓練を行う隊員ら（県提供）